

情報活用能力を育成するために「チェックリスト2022」を活用しましょう

情報活用能力は、発達段階に応じて体系的に学ばせていくことが大切です。

「情報活用能力チェックリスト2022」は、子どもたちに情報活用能力を身につけさせるべき情報活用能力を発達段階に応じて具体的にイメージできるよう内容を構成しています。小学校[低・中・高学年]用、中学校用と系統的に作成された「情報活用能力チェックリスト2022」を使って、計画的に子どもたちの情報活用能力を育成していきましょう。

「チェックリスト2022」活用の流れ

1 チェックリストを見て「**情報活用能力**」を具体的にイメージしましょう。各学年段階（小学校[低・中・高学年]、中学校）で身に付けさせなければならない情報活用能力について具体的に把握します。

2 **子どもたちの実態を把握**しましょう。

子どもたちがチェックリストで自己評価をすることにより自分の課題が分かります。

自己評価から先生は実態に合った指導すべき情報活用能力の傾向をつかむことができます。

3 情報活用能力を育成するためにチェック項目に合わせた**学習場面を考え**ましょう。

各教科等の中で次のことに着目した**学習活動**を考えましょう。

子どもが扱う「**情報**」と「**情報の扱い方**」

ICTを使った活動

例えば

⑩を指導すべき情報活用能力として選んだら…

— 中学校 — 2年・数学

携帯電話の複数の料金プランが書かれた表を分析する場面で、数値をもとに一次関数のグラフを作成して、自分の使用状況に応じた料金プランを選択する。

— 小学校 — 4年・社会

交通事故件数の経年変化のグラフを読み取る場面で、長いスパンで見た場合と短いスパンで見た場合を比較して、見え方が異なることを理解する。

4 「**チェックリスト2022**」を使った**振り返り**をしましょう。

単元の始めだけでなく、授業中や終わりにすることで、子どもたちも情報活用能力をより意識することができます。

情報教育が目指すものは、子どもたちの情報活用能力の育成です。各教科等の授業の中で育成すべき情報活用能力を意識することが大切です。「情報活用能力チェックリスト2022」は今年度より **GIGA 端末のフォーム**で活用することができます。令和3年度の **GSL 研修**で配布されたものか、令和4年度に **GSL 情報共有 Classroom**にも整備予定ですので、そちらをお使いください。

